

作成日 2002/01/01

改訂日 2021/10/01

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 結晶チオ硫酸ソーダ
製品コード 1410
整理番号 301-0-06
供給者の会社名称 エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル株式会社
住所 神奈川県川崎市幸区大宮町1310
担当部門 RC推進部
電話番号 044-540-0110
FAX番号 044-540-0109
緊急連絡電話番号 上記担当部門

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

GHS分類に該当するデータは得られていない。

GHSラベル要素

情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

単一化合物

化学名又は一般名

チオ硫酸ナトリウム(5水和物)

別名

結晶ハイボ

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
チオ硫酸ナトリウム(五水和物)	100%	Na ₂ S ₂ O ₃ ·5H ₂ O	(1)-503	不明	10102-17-7

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。

眼に入った場合

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。

医師に対する特別な注意事項

救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

症状に応じて処置すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。

粉じんが発生している時は乾燥砂を用いる。

この製品自体は、燃焼しない。

使ってはならない消火剤

情報なし

火災時の特有の危険有害性

燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

特有の消火方法

消火作業は、風上から行う。

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。

多量の場合、人を安全な場所に退避させる。

必要に応じた換気を確保する。

環境に対する注意事項
封じ込め及び浄化の方法及び機材
二次災害の防止策

漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
漏出したものを掃き集めて紙袋またはドラムなどに回収する。
元の容器に回収して再使用することは絶対に避けること。
付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

接触回避
衛生対策
保管 安全な保管条件

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
『10. 安定性及び反応性』を参照。
取扱い後はよく手を洗うこと。
『10. 安定性及び反応性』を参照。
換気の良い場所で保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
チオ硫酸ナトリウム(五水和物)	未設定	未設定	未設定

設備対策

蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。

保護具

呼吸用保護具
手の保護具
眼、顔面の保護具
皮膚及び身体の保護具

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
必要に応じて、適切な呼吸器用保護具を着用すること。
必要に応じて、適切な保護手袋を着用すること。
必要に応じて、適切な眼の保護具を着用すること。
必要に応じて、適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態
形状
色
臭い
融点/凝固点
沸点又は初留点及び沸点範囲
可燃性
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界
下限
上限
引火点
自然発火点
分解温度
pH
動粘性率
溶解度
n-オクタノール/水分配係数
蒸気圧
密度及び/又は相対密度
相対ガス密度
粒子特性
その他

固体
単斜晶系結晶、粒状又は粉末
無色～白色
無臭
48.2℃
データなし
不燃性
データなし
データなし
データなし
データなし
220℃
6.5～8.0
データなし
水:74.7g/100g(0℃), エタノールに微溶, 水:301.8g/100g(60℃), 液体アンモニアに可溶
データなし
データなし
1.715(27℃/4℃)
データなし
データなし
湿気があるとわずかに潮解し、乾燥空気中では風解する。
水に溶ける際、温度が非常に下がる。

10. 安定性及び反応性

反応性
化学的安定性
危険有害反応可能性

情報なし
一般的な取扱いにおいては安定
酸と混触すると、亜硫酸ガスを放出する。
強力な酸化剤と激しく反応する。水溶液は弱塩基である。

避けるべき条件	加熱、裸火、スパーク、混触禁止物質との接触
混触危険物質	強酸、塩素(溶液)、ハロゲン、ヨウ素、鉛塩、水銀及び水銀塩、硝酸の金属塩、亜硝酸の金属塩、酸化剤、カリウム、ナトリウム
危険有害な分解生成物	硫黄酸化物、酸化ナトリウム

11. 有害性情報

急性毒性	経口	ラット LD50 \geq 5,000mg/kg (RTECS)
	経皮	データなし
	吸入	データなし
皮膚腐食性/皮膚刺激性		データなし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		データなし
呼吸器感作性		データなし
皮膚感作性		データなし
生殖細胞変異原性		データなし
発がん性		データなし
生殖毒性		データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		データなし
誤えん有害性		データなし

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)		データなし
水生環境有害性 長期(慢性)		データなし
生態毒性		データなし
残留性・分解性		データなし
生体蓄積性		データなし
土壤中の移動性		データなし
オゾン層への有害性		データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報	非該当
	Marine Pollutant	Not applicable
	Liquid Substance	Not applicable
	Transported in Bulk	
	According to MARPOL	
	73/78, Annex II, the	
	IBC Code	
国内規制	航空規制情報	非該当
	陸上規制	非該当
	海上規制情報	非該当
	海洋汚染物質	非該当
	MARPOL 73/78 附属	非該当
	書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	
	航空規制情報	非該当
	国連番号	非該当
緊急時応急措置指針番号		なし

15. 適用法令

労働安全衛生法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	非該当
輸出貿易管理令	別表第1の16の項

16. その他の情報

参考文献	ezSDS(JCDB) 化学物質総合情報システム (NITE) STNデータベース (MSDS-OHS, RTECS)
その他	全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。